

令和 2 年度第 8 回ローカルファンドを考えるコアメンバー会議 議事録【概要】

日時: 令和 3 年 3 月 17 日(水) 19:00~20:30

場所: 西条市役所新館 4 階 404 会議室

■出席者: 別紙出席者一覧のとおり

■議事等

1 これまでの議論の確認

◎事務局: 今年度の検討内容を振り返り、これまでの経緯を共有。【別紙資料の通り】

2 これまでの議論を経た上での課題の共有と方向性

◎事務局: 前回会議で、これからのコアメンバー会議に関してメンバーからご意見いただき、事務局としても確かにと思うところがあった。課題を明らかにして、皆さんと共に考えていきたい。

【会議に関する課題】

- ・参加者の減少
- ・スケジュール感が見えない
- ・議論が前向きに進んでいないという印象
- ・会議での議論が積み上がっていない 会議の持ち方を練り直す必要があるのでは。

今あげた課題の中でも色々な考え方があると思う。率直に、感じることを言っていたきたい。

◎メンバー: 議論が積み上がっていないことと、コアメンバーになったがずっと参加していない人がおり、そういう人は前向きな気持ちがあるのかな、ということが疑問。

◎メンバー: そもそも、この会議の目的がどこにあるのか。何のためにみんなが集まっているのか。集まる意味が見えない。最初はコミュニティ財団を立ち上げるというある程度の目的もあったが。

⇒◎事務局: コミュニティ財団というのは分かりやすく皆で話し合いやすいテーマであると思い市から提案していたが、先ほどの議論の流れにあったように、原点に立ち返ろうということで、話し合いを整理した。そうすると、確かに今度は「分かりにくい」というご意見もあると認識はしている。

◎メンバー: 議論が少しずつ積み上がってきたかなというところで、毎回は参加していない方がご意見を言って揺れ戻されたりして、なかなか議論が形になっていっていないと感じる。

また、メンバーの中にも、「財団を使いたい」という人と、「純粋に西条に財団ができるとしたら」と考える人がおり、二極化あるいは三極化している印象。そこが平行線のため、なかなか議論が形になりづらいのではないかな。

◎メンバー：2 時間話すのは疲れる。メンバーは、仕事が終わって参加しており、そこでフワフワした話を 2 時間しても、と感じる。皆さんの意見を取り入れたい、という行政の立場はあると思うが、ある程度は行政で道筋を作っていただいたほうが、市民には分かりやすい。

◎メンバー：初めての参加で恐縮であるが、先ほど出てきた「議論が進んでいない印象」という話について、私の印象では、全く逆の印象を受けた。いろんな意見の方をまとめていくというのは並大抵の事ではないと思うし、またそれぞれバックグラウンドもあるので、考え方は様々だと思う。

◎事務局：ご意見を聞きながら、事務局としてもよりよい方向になるよう努力をしていく。
前回の第 7 回会議の時に、メンバーであるリズカーレの安形さんから取組をご説明いただいたが、その後の経過、現状について、皆さんにお伝えいただければと思う。

◎コミュニティ財団設立に向けた提案（一般社団法人リズカーレ 安形真氏）

- ・前回会議で、全国コミュニティ財団協会が公募していた事業に応募することを皆さんに相談した。議論をしてきて積みあがってきたものもあるが、なかなか前に進まないなというもどかしさを感じ、こういう機会を利用して一つの事例を出したほうが、議論が前に進みまち自体が良い方向に進んでいくのではないかと思い、チャレンジした次第。
- ・私はもともとソーシャルセクターの起業支援をやってきた。社会事業家を中心に支援したいという想いがある。また、市民活動団体は、資金を持ち出しで活動することが多く、それが原因で活動が長続きしない、広がらない、モチベーションが低下する、というような課題があり、そこを支援することでまちがもっと活性化すると考えている。一つ一つの社会的課題をビジネスの手法で解決する。そういう支援を中心にしていきたいと考えている。
- ・事業としては、資金仲介をしながら、事業化の支援をする。運営資金がきちんとまわるようなシステムを構築する。
- ・財団自体は、基本的に市民や企業から寄付を集めるということを主体とする。寄付を預かって、助成金にする。その助成先は、財団の関係者で考えていく。
- ・2 つ目に、まちづくり電力会社について。電力会社と組んで、電気利用料を下げたプランを提案し、料金が下がった部分をまちづくりの支援金にまわしていくようなビジネスモデルを考えている。運営費や諸経費について、こういったまちづくり電力会社からの寄付で賄うことも考えている。もしも余れば助成金にすることもあるかと思う。
- ・とはいえ、私の会社が今、コミュニティ財団を作りますと言っているが、コミュニティ財団とは市民の財団なので、私の会社だけでやっていくことではない。
- ・来年度から、まず資金仲介を行う。そのために、寄付金集め、助成金の選定を行う。これは、私の会社でというわけではなく、このコアメンバーで考えるのか、それとも別の会議で考えるのか。そういったところはまた考えていく必要がある。
- ・ここにいる人だけでなく、地域の皆で、コミュニティ財団を運営していく気持ちがあるのかということ

明確にしていきたい。一年間でしっかり議論して、「よし、やっ払いこう」となったら、私の会社からさらに徐々に手放していくような想定。

徐々にシフトチェンジしながら、3 年後に、コミュニティ財団機能を外に移す。コミュニティ財団が自走し、市民によって運営されているというところを目指すのが、一番良いと思っている。

- ・一方で、議論の流れの中で、「まだ早いのでは」という話にもなるかもしれない。ただ、この事業は休眠預金という国民の資産を使って実施しているものなので、資金仲介事業というものをきちんと西条市に残す必要があり、その場合は我々が責任をもってやっていくということを考えている。
- ・最終的には、公益財団法人としてコミュニティ財団を作り運営していくか、コミュニティ財団を作らずにリズカーレが資金仲介事業を作っていくか。その 2 つのストーリーを用意している。
- ・今の状況としては、採択の内定をいただいたというところ。
- ・今回この公募事業にエントリーしようと思った一番の理由は、社会的インパクト評価をきちんと学べるところ。公的なお金を投資する中で、投資対効果はなかなか分かりづらい。そこを皆で勉強しながらコミュニティ財団を作っていく、そのプロセスが大事だと思っている。
- ・どういうことをやったらどういう変化が起こるのか、という仮説をまず作ることと、それを適切に評価すること。その評価というのは、実は事業を改善するための手法であって、きちんと評価していない状態で何となく皆さんの大切なお金を投じている状態というのは好ましくない。
- ・社会的課題の解決という観点から、この社会的インパクト評価というのは大事。まちづくりをしている人たちと一緒にやっていきたい。

～質疑応答～

◎メンバー：社会的インパクト評価についてまだよく分からない。どういう風に項目を設定していくのか。

⇒ノウハウはあり、100 ページ以上にもわたるマニュアルもありそこから勉強していくところ。私も初めてである。今回、全国コミュニティ財団協会が伴走支援してくれるというのも、一つの良いところであり、分からない時は聞いて教えてくれる人がいる。

また、資金仲介をする時に、助成先に対して、私たちがそういう評価をできるようにならないといけない。支援を受けながら支援をするという形であり、実践的に学んでいけると思う。

◎メンバー：四月からの事業開始か。

⇒書類不備等あれば少し遅れる可能性もあるが、四月からの予定である。

◎メンバー：コアメンバー会議は進めながらも、安形さんの事業は事業で進めていくということになるか。

⇒事務局：今安形さんからお話のあった事業について、賛同いただける方は参加いただきたいと思います。そして、今までの議論を踏まえた中で、コアメンバー会議はコアメンバー会議で残すべきだと考えている。

コアメンバー会議では、令和 3 年度は仕組みを構築しましょう、という目標がある。

市民活動団体にとって、資金面はネック。行政としても NPO 等への寄付制度を創設もしているが、

寄付の集め方などの勉強会のようなものを行い、例えば、コミュニティ投資やコミュニティ融資、そういったものも議論を深めていくようにしたらどうか、と思っている。安形さんが手を挙げてくれてコミュニティ財団の設立を提案している中、そういったことも必要になってくると思う。最終的なところは同じ方向を向いているが、このコアメンバー会議の一年間の議論の中では、コミュニティ財団の設立は「まだ早い」という議論もあったため、そういう進め方が良いかと思っている。

◎メンバー：今の話は、コアメンバー会議と、コミュニティ財団会議という 2 つの会議があり、その2つの会議に重なる人もいる、ということか。

⇒事務局：そう。その中で、コアメンバー会議についても、今のメンバーだけではなく、以前のローカルファンド研究会のように公募して、その参加者は、安形さんの事業にも関心がある方にはまたそちらにも加わってってもらい、といったイメージを今持っている。

◎メンバー：私の中では、なかなかコミュニティ財団が出来るイメージがついていない。本当にこの西条の規模感で出来るのかなと感じており、私にはどうしていいかわからないというところ。

◎事務局：資金仲介の必要性は皆さん感じていると思う。とはいえ、コミュニティ財団というところまで行くには、現時点ではそれぞれ温度差があるのだと思う。議論や実践を進める中で、コミュニティ財団になるのかならないのか、となっていくと思うが、今のところは結論を出せないと思う。

◎メンバー：実際、寄付が 300 万円集まるのかと言われたら分からない。でもみんなで力を合わせたら何とかできるのではないかな。

◎メンバー：コアメンバー会議はコアメンバー会議でいろんな意見を出しながら進み、安形さんの事業にもコアメンバーの方も参加すれば実務や流れが分かっていくと思うので、先ほど市から言われたような、どちらにも参加できるような形でいいのではないかなと思う。

◎メンバー：そもそも、四国にはコミュニティ財団がなく、全国コミュニティ財団協会も、四国での設立の必要性を唱えている。コミュニティ財団が各地にあるというのは全国的流れだと思う。結局はやってみないと分からないので、覚悟を決めてコミットするしかない。今回枠組みのようなものを提示してくれたのは、大きなチャンス。私個人としては、ぜひ進めていきたい。色々な問題も出てくるとは思うが、目指すべき方向が見えて、そこに向かって進んでいると思う。社会的インパクト評価も、これから民間企業も時価総額などだけで判断されるような社会の価値観ではなくなっていく中、社会的インパクト評価をきちんと運用している地域になっていくのは最先端な事例。その可能性を感じる人たちとやっていけたらいいと思う。

◎事務局：市として、コアメンバー会議の今後については、インプットをする場にできればと考えている。

これまで会議への温度差や参加動機などバラバラな中で話し合いをしてきたが、議論が行ったり来たりというところもあった。

そんな中、来年度は「仕組みを構築する」という合意した目標がある中で、このコアメンバー会議の議論は続けていく必要がある。チャレンジを続けていくための資金調達を学ぶような会の持ち方にした方がいいのではないかと考えている。寄付、社会的投資、融資などについて、有識者などお招きして学ぶ場をつくり、どういう風な仕組みにするか、というところまで来年度行けたらいいなと思っている。

安形さんの進めようとしている事業にもつながってくるところ。そういう案をもっているが、皆さんのご意見をお聞きしたいと思っている。

このコアメンバー会議の皆さんにも、引き続き今後の会にも入っていただきたいが、こちらからテーマを提示して、それに興味を持った方に参加してもらうような方向性で出来ればと考えている。

◎事務局：そういう場をもつことによって、コミュニティ財団を考えることへの入り口にもなると考える。コミュニティ財団は、多くの市民の方から寄付を集めることになるが、それだけの共感者がいないと、地域の中で活用されない。

だから、市民の意識を醸成するためにも、市役所としては、入り口として会を設けていくというのも大事なのかなと思う。議論の結果、「いや、コミュニティ財団は必要ない」という結論になるかもしれないけれども、「必要」と思う人が増えていくよう進めていきたい。

◎メンバー：仕組みづくりは重要で、コミュニティ財団はアリ・ナシという問題ではないと思う。資金集めがボトルネックなのであれば、そこを解消する手段を考えなければならない。レベルで言うと、コアメンバー会議はレベル 2、リズカーレの資金仲介事業はレベル 3 くらい。広く市民に知ってもらう場というのはレベル 1 といった感じで、ある程度段階分けしていったって、次のレベルに行こうかというときに行けるような明確な仕組みや関係を作らないといけないのではないかなと思う。

◎事務局：コアメンバー会議はコアメンバー会議で勉強していく、リズカーレはリズカーレで組織を作り活動していく、お互いに情報共有、連携をしながら、同じ方向を向いて共に歩んでいくということによっていいでしょうか。

◎メンバー：ちなみに、コミュニティ財団を考える会議に参加したい方は、今どれくらいいますか。
(⇒挙手 2 名)

◎事務局：議題は以上。せっかくなので初めて参加いただいた方にも感想などお聞きたい。

◎メンバー：皆さんが勉強しながらこれまでやってこられたのだと思う。それぞれ立場が違う中で方向性を考えるのは大事だが、皆さん色々な仕事にも就かれている中で、やっていくのはすごく難し

いとも感じた。私自身は障がい者という立場として、色々な問題も抱えている中で、共生社会という目標がある。こういう場で勉強して、ステップを積んでいくといいのかなと。今後の勉強会に参加したいなと思った。

◎メンバー：今回初めてで、理解できていない部分もあるが、以前 SAIJO SOUP に参加して、安形さんに手伝ってもらったりして、自分が今チャレンジしているからこそ、サポーターという存在の有難さがよく分かる。もしもコミュニティ財団に発展させていけなくとも、チャレンジャーとサポーターを繋げられる何かが地域にあればいいなと思った。

◎メンバー：私も今回初めてであったが、大枠では「チャレンジを応援しあえる地域社会」という風に認識している。私も金融機関の一員として、地域活性化、ひいては当行の発展にもつながるものと思いい活動していきたい。

「了」